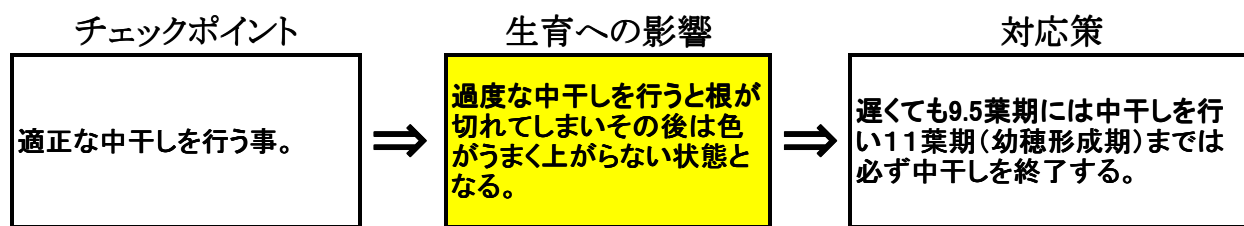


単収確保に向けて 《第6弾》

6月20日の管内の生育調査データによると、葉令についてはほぼ平年並みとなりましたが、依然として茎数は平年よりも多くなっておりまます。ただし、圃場によっては、茎数が平年より少なめの圃場がありますので、各自圃場を確認し各営農センターによる生育調査結果を確認の上管理作業をお願いいたします。

単収確保に向けた重点実施事項



◎今後の水管理について

○安定生産をするために、次の点に注意して水管理をお願いします。

(1) 中干し管理

- ・中干しを行い、窒素の吸収を抑えることにより、根が下層まで深く伸びます。又、過剰分けつを抑えることにより、健全な稲体になります。
- ・中干しについては、田面に長くつの足跡が残るくらいとし、遅くとも11葉期(幼穂形成期)には、終わるようにして下さい。幼穂形成期以降にも続けると、重要な時期に根が切れてしまい養分吸収がうまくいかない可能性があります。
- ・中干し終了後は、間断かん水へと切り替え願います。

水管理の例	浅水管理で分けつ促進	深水管理 理想は 15cmの水深 用水が確保できる 圃場	中干し	現在の 生育状況より
	生育ステージ	7葉期	8.5葉期~9.5葉機	
	月日(目安)	6月13日	6月25日~7月2日	7月3日~7月12日

◎残草対策について

管内の圃場を巡回しておりますと、初中期一発剤や中期剤等できこぼした雑草が見える圃場が例年以上に散見されます。圃場によっては、稲が雑草により養分が吸われているような圃場も見られます。残草がひどい圃場については、今後の生育にも影響が出てきますし、特にノビエ・ホタルイの発生量が多いと斑点米カメムシ類の増殖源にもなりますので、早めの対応をお願いいたします。

稲の生育も早いですが、雑草の生育も早くなっておりまますので、高葉令の雑草にも効果のある剤を選んで下さい。(例、バサグラン剤等)

チェックポイントを点検し
該当する対応策を実施しましょう。